

監査委員の 決算審査意見

平成29年度各会計決算審査が8月3日から8月29日迄のうち実質5日間開催され、本定例会において代表監査委員から決算審査意見書について報告がありました。



松本 猛 代表監査委員

(1) 国民健康保険病院の経営について

国民健康保険病院の経営・運営状況については、ここ数年、一般会計からの約1億8000万円規模の補てんにより維持されており、これまでも指摘するとおり抜本的な改善策が

求められる中、看護師の確保や施設の老朽化、入院・外来患者の減少等といった課題もあり改善が進んでいないのが現状となっている。

しかしながら、このままの状況が長期化すると、本町の財政に多大な影響を与える、行く末には財政調整基金の枯渇を招くことが想像される。

現在、町では第6期総合計画の策定及び行財政改革実施計画の見直しに取り組んでいるところであり、本町の今後の財政面からも、当然に施設の整備も含めた病院の体制や2次

医療圏域との連携体制の整備、福祉政策との一体的な取り組み等の抜本的な見直しが最大の課題として議論されているものと推測され、その結果が待たれるところである。また、病院運営委員会においても、このような現状を踏まえた活発な議論を期待する。

(2) 収納事務について

町税をはじめ、各種公共料金及び国保病院診療費の未収金（滞納）については、日頃各担当において徴収に努めているところであると察するが、平成29年度においても著しい改善に至っていない状況となっている。そのため、早急に各担当課の連携による徴収対策方法等を協議する場を設けて、未収金（滞納）の減少に努めることが望まれる。

(3) その他

近年、当該各会計決算及び各基金の運用状況審査において、決算書と行政報告との計数が不合しない例が散見され、都度修正が行われる状況となっている。

特に、行政報告の作成にあたっては、決算書のみならず財務会計システムによる「事業別予算・決算状況」等により、決算額等を確認し、正確な計数を把握する等の事務の徹底、見直しが求められる。